

北見市における景気動向調査報告書

< 第 IV 四 半 期 >

北 見 商 工 会 議 所

I. 調 査 要 領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1) 調査時点 平成25年4月15日

(2) 調査対象期間 平成25年1月～3月期実績および平成25年4月～6月期見通しについて調査した。

2. 調査対象

北見市に所在する企業を対象に、製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の5業種150社を往復ハガキにより調査した。

3. 回収状況

業種 \ 企業数	対象企業数	回答企業数	回答率
製造業	30社	21社	70.0%
建設業	30社	23社	76.7%
卸売業	30社	23社	76.7%
小売業	35社	22社	62.9%
サービス業	25社	17社	68.0%
合計	150社	106社	70.7%

注) 本調査結果の中で、D・I値とある記号は、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)で好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

Ⅱ．概 況

《 全 体 の 動 き 》

平成24年度第Ⅳ四半期平成24年<1月～3月>の北見市における業況は、前年比で「好転企業」17.0、「悪化企業」40.6、「好転」から「悪化」を差し引いたD・I値は△23.6となっています。

このD・I値を前年同期と比較してみると、前年同期△28.7→今期△23.6と5.1ポイントの好転傾向を示しています。一方、前期調査<24年度第Ⅲ四半期>（平成24年10月～12月）との比較では、前期△18.5→今期△23.6と5.1ポイントの悪化傾向を示しています。

今回の業況を業種別で見ると、製造業D・I値△9.5、建設業D・I値△13.0、卸売業D・I値△17.3、小売業D・I値△41.0、サービス業D・I値△41.3となっており、前年同期と比較すると、製造業で24.2ポイント、建設業で15.0ポイント、卸売業で0.1ポイント好転している一方、サービス業で13.5ポイント、小売業で2.9ポイント悪化となりました。全業種マイナス値であり、特に小売業、サービス業は40ポイントを超える高いマイナス値となっていることから、厳しい状況が伺えます。

また、来期の見通しを全業種で見ると「好転企業」18.9%、「悪化企業」35.8%でD・I値△16.9%と、前年同期見通し（△26.0）に比べ18.2ポイントの好転傾向を示しましたが、今期の業況と同様に、D・I値はマイナス値であり、予断を許さない見通しとなっています。

《 業 種 別 の 動 き 》

1) 製 造 業

生 産 高

前年比で「増加企業」14.3%、「減少企業」38.1%、D・I値△23.8と前年同期に比べ9.6ポイントの悪化傾向を示しました。

採 算

前年比で「好転企業」14.2%、「悪化企業」42.9%、D・I値△28.7と前年同期より14.5ポイント悪化となりました。

来期見通し

業況D・I値△9.6、生産高D・I値△28.5、資金繰りD・I値△23.6と、前年同期に比べ、業況は好転、生産高は横ばい、資金繰りは悪化と、各項目異なる結果となりました。

2) 建設業

完成工事高 前年比で「増加企業」30.4、「減少企業」26.1%、D・I値4.3と前年同期に比べ、D・I値がマイナスからプラスに転じる結果となりました。

採算 前年比で「好転企業」26.1%、「悪化企業」26.1% D・I値0と前年同期に比べ4.2ポイントの好転傾向を示しています。

来期見通し 業況D・I値△17.3、完成工事高D・I値△30.5、資金繰りD・I値△4.3と、前年同期の見通しと比べ、全て好転しましたが、特に完成工事高は高いマイナス値となっています。

3) 卸売業

売上高 前年比で「増加企業」21.7%「減少企業」43.5%、D・I値△21.8と前年同期に比べ17.5ポイントの悪化傾向を示しています。

採算 前年比で「好転企業」21.7%、「悪化企業」34.8%、D・I値△13.1と前年同期に比べ13.0ポイントの好転傾向を示しました。

来期見通し 業況D・I値△17.3、売上高D・I値△17.3、資金繰りD・I値0と、前年同期に比べ業況、売上高では悪化となりましたが、資金繰りでは好転結果となりました。

4) 小売業

売上高 前年比で「増加企業」13.6%「減少企業」59.1%、D・I値△45.5と前年同期と比べて17.0ポイントの悪化傾向を示しています。

採算 前年比で「好転企業」9.1%「悪化企業」54.5%、D・I値△45.4と前年同期と比べて16.9ポイントの悪化となりました。

来期見通し 業況D・I値△13.7、売上高D・I値△13.7、資金繰りD・I値△18.2と前年同期と比べ、業況・売上高で好転したものの、資金繰りでは悪化となりました。

5) サービス業

売上高

前年比で「増加企業」29.4%、「減少企業」41.2%、D・I値△11.8と前年同期と比べ4.9ポイントの好転傾向を示しました。

採算

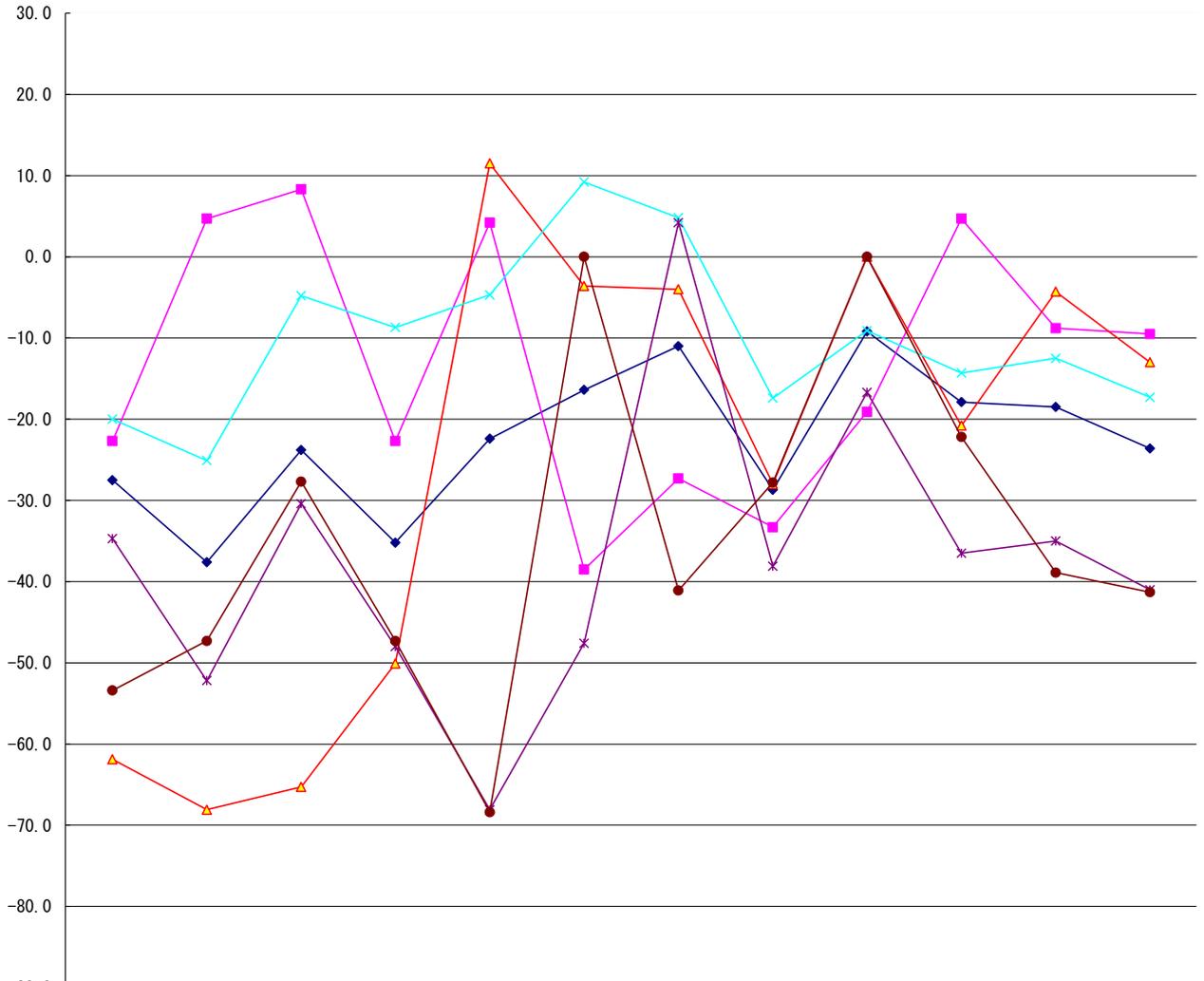
前年比で「好転企業」23.5%、「悪化企業」47.1%、D・I値△23.6と前年同期から横ばいの結果となりました。

来期見通し

業況D・I値△29.5、売上高D・I値△23.6、資金繰りD・I値△29.4と、前年同期と比べ全て好転となりました。

業況（前年同期比）

◆ 全業種
 ■ 製造業
 ▲ 建設業
 × 卸売業
 ✱ 小売業
 ● サービス業



	22.4~6 22年度Ⅰ	22.7~9 22年度Ⅱ	22.10~12 22年度Ⅲ	23.1~3 22年度Ⅳ	23.4~6 23年度Ⅰ	23.7~9 23年度Ⅱ	23.10~12 23年度Ⅲ	24.1~3 23年度Ⅳ	24.4~6 24年度Ⅰ	24.7~9 24年度Ⅱ	24.10~12 24年度Ⅲ	25.1~3 24年度Ⅳ
◆ 全業種	-27.5	-37.6	-23.8	-35.2	-22.4	-16.4	-11.0	-28.7	-9.2	-17.9	-18.5	-23.6
■ 製造業	-22.7	4.7	8.3	-22.7	4.2	-38.5	-27.3	-33.3	-19.1	4.7	-8.8	-9.5
▲ 建設業	-61.9	-68.1	-65.3	-50.1	11.5	-3.6	-4.0	-28.0	0.0	-20.8	-4.3	-13.0
×	-20.0	-25.1	-4.8	-8.7	-4.7	9.2	4.8	-17.4	-9.1	-14.3	-12.5	-17.3
✱ 小売業	-34.7	-52.2	-30.4	-48.0	-68.1	-47.6	4.2	-38.1	-16.7	-36.5	-35.0	-41.0
● サービス業	-53.4	-47.3	-27.7	-47.3	-68.4	0.0	-41.1	-27.8	0.0	-22.2	-38.9	-41.3

業 種 別 経 営 上 の 問 題 点

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
製 造 業	諸 経 費 増	得 意 先 減 少	同業者間の競合	人 材 不 足	人 件 費 増
建 設 業	同業者間の競合	得 意 先 減 少	人 材 不 足	諸 経 費 増	人 件 費 増
卸 売 業	同業者間の競合	得 意 先 減 少	人 材 不 足	諸 経 費 増	人 件 費 増
小 売 業	同業者間の競合	得 意 先 減 少	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増
サービス業	諸 経 費 増	同業者間の競合	得 意 先 減 少	人 件 費 増	人 材 不 足
合 計	同業者間の競合	得 意 先 減 少	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増

※ 問題点は、各業種とも3つ選択。

合計を前年同期と比較すると、1位、4位、5位については順位の変動がなく、2位、3位の順位が入れ替わる結果となった。特に「得意先減少」がサービス業を除く全ての業種で2位となっており、業種を問わず増加している課題となっている。

また、合計では3位となったものの、製造業・サービス業では「諸経費増」がトップの結果となっている。

※その他及び具体的な業界の問題点の記載事項

(建設) ○例年に比べ出足はスムーズ。資材の高騰が心配 (板金)

○職人不足と高齢化 (板金)

(卸売) ○仕入価格の上昇 (鉄鋼)

○震災以降、風評被害で道内米しか売れない。当社の商圏には道内他都市の同業者が参入しており、占有率が少なくなっている。また大手スーパーの台頭で、小売店がほとんど機能していない (米穀)

○T P P交渉の行方に注視したい (種苗・肥料・農薬農業資材)

○需要減と安売り競争の激化 (石油製品)

(小売) ○T P Pの関係でお客様の買い控えが非常に大きい。

受注が取れず見通しがよくない (農業機器)

業況

製造業 ⇒ 好転（木製品、ブロック製造）
悪化（印刷）

建設業 ⇒ 好転（土木建築、電気工事、一般住宅建築）
悪化（土木とび土工、建築、塗装、一般土木・給排水・衛生・冷暖房）

卸売業 ⇒ 好転（鉄鋼、製菓機器、製材、医療・介護福祉機器、石油製品）
悪化（なし）

小売業 ⇒ 好転（菓子、眼鏡、家具）
悪化（衣料品、農業機器、画材、米穀）

サービス業 ⇒ 好転（ホテル【宴会・宿泊】）
悪化（クリーニング、理容、弁当仕出、自動車賃貸）

※太字アンダーライン表示は重複該当業種